

富士市立高等学校学校運営協議会準備委員会

第3回 議事概要

- 開催年月日 平成23年8月23日(火)
- 開催時間 午後6時30分から午後8時30分
- 開催場所 富士市立高等学校会議室
- 出席者 [学校運営協議会準備委員会委員]
安藤 肇 奥園好文 加納孝則 高田 稔 内藤栄一
畑 隆 増田正之 渡邊利夫 渡辺泰明

[教育長]
平岡彦三

[教育次長]
鈴木清二

[教育総務課・市立高校]
池田和明課長 他教育政策担当
齋藤照安校長 小林政樹事務長 他教職員
- 会議の概要
 - 1 開会
 - 2 委員長あいさつ
今日は、1学期が終了してから開かれる委員会ですので、富士市立高校が発足して最初の節目の会議ということになります。1学期を振り返って、この間の教育活動についての御意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ致します。それでは、さっそく学校から1学期の活動報告をお願いします。
 - 3 議事
 - (1) 1学期の活動報告

ア 校長より

早いもので1学期も終わり、もう夏休みも終わろうとしています。これまでどういう教育に取り組んできたか、私からは簡単に報告させていただきます。詳細につきましては、この後、担当から説明させていただきます。その前に、富士市立高校がどういうことをコンセプトとして、どういう方向に向かっていこうとしているのかについて、今一度確認させていただきます。

資料に「富士市立高校の魅力って何？」というプリントがありますので、そちらを御覧下さい。私自身は、開設の準備に携わっておりませんが、いろいろな資料を拝見し、私なりに解釈させていただきました。2の「特徴ある教育スタイル」ですが、やはり、本校はキャリア教育の実践に取り組むことが大きな教育目標です。このキャリア教育を進めていくため、社会人講話、新入生研修、特別研修、大学・学部研究、さらに、来年の海外探究旅行などの具体的な取り組みを掲げています。こうした経験を通して、将来どういう方向に自分を持っていくかという点を前に出していこうと思います。

ただ、いくつかの問題点があります。例えば3年後の受験をどうするのか。我々が掲げている目標は、「全ての学びはキャリア教育に繋がっていく。」ということです。そのキャリア教育を通して自分の将来を決めていくわけですから、初めから受験のための詰め込み学習を目指すのではなく、あくまでも3年間の学習を通した進路実現を柱とします。そんな中で、国公立大学に行きたいという生徒がいれば、それに対応した細かな指導をしていきます。結局、就職であれ大学進学であれ、生徒が3年間やってきたものを活かせるような進路選択をさせたいと考えています。

また、もう一方で、キャリア教育を進めていくには、探究学習を通じて知識や理解する力、学び取っていく力を養うことが大事です。キャリア教育を進めていくためには、どうしても探究学習の要素が必要であり、合わせて体験的な学習が必要なのです。

さらに、サポート的な役割として、現在行っておりますサテライト学習や学習サポート、生徒の安全を考えてのスクールバスの運行などがあります。

裏面に部活動の結果が載っています。御覧のとおり、全国大会には6部活が出場しています。それから、東海大会に6部活、県大会に7部活出場しており、先生方の御指導により結果が出ています。

この後、1学期の活動状況を画像で見させていただきますが、その中で

も見て欲しいのは、1年生ですと、5月13日に行われた大手予備校による進学講演会。この日、2年生は学年懇談会、3年生は進路説明会を行いました。それから、5月24日には、先ほどの予備校による授業力向上セミナーを全職員で研修しました。6月16日には、キャリア支援課が中心になって、1年生の社会人講話ということで、総合探究科では、平成建設大工工事部の永田様、ビジネス探究科では、ビオファームまつきの松木様、スポーツ探究科では、藤枝MYFCの齋藤様を招聘しました。7月上旬には、来年に向けての教科書の選定。また、8月に入り、月上旬に2年生は進学合宿、1年生は夏季集中講座。中旬には、3年生の就職選考会議が開かれました。以上、それなりの教育活動ができたと思いますが、後ほど質問等があればよろしくお願ひします。

イ 活動報告Ⅰ

プレゼン資料を元に、学校概要、教育活動についての報告。

- ① 目指す学校像「コミュニティーハイスクール」「ドリカムハイスクール」「探究ハイスクール」の考え方
- ② 育てたい生徒像「自律する若者」の考え方
- ③ 探究学習の考え方とその取り組み
- ④ キャリア教育の考え方とその取り組み
- ⑤ サテライト学習、学習サポート、スクールバス、部活動について
- ⑥ 1学期を終えての生徒の感想

ウ 活動報告Ⅱ（各課長または各科長より）

（ア）総務課

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① P T A総会、地区会について
- ② その他のP T A事業について
- ③ 今後の活動予定について

（イ）教務課

活動報告書を参考に1学期の事業について説明。

- ① 平成23年度入学生の教育課程表と関連する事項について
- ② 平成24年度の教科書採択について
- ③ 1学期の成績について（成績不振が昨年の1／3）
- ④ 1学期の出欠状況について（遅刻数が昨年の半分以下）
- ⑤ 中学生の高等学校一日体験入学について（8月12日実施）

(ウ) 生徒課

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 制服マナーについて（1年生と2，3年生との違い等）
- ② 早朝指導・校外指導について
- ③ 交通安全指導について
- ④ 部活動について
- ⑤ 生徒会活動について（生徒主体の活動への変革等）

(エ) 企画研究課

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 職員研修について（研修テーマと現在までの取り組み）
- ② 探究学習について
- ③ サテライト学習・学習サポートの運用について

(オ) 情報管理課

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 情報機器の利用について
- ② 図書館の利用について
- ③ ホームページの管理について

(カ) キャリア支援課

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 1年生のキャリア教育の取り組みについて
- ② 3年生の求人状況について（求人は昨年度の2割減）
- ③ 2年生の勉強合宿について

(キ) 保健環境課

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 生徒の健康ケアについて
- ② 校内美化活動について
- ③ 生徒対象の講演会・講習会について（思春期、AED講座）

(ク) 商業科

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 検定取得状況について
- ② ワープロ競技会での全国大会出場について

(ケ) 総合探究科

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 総合探究科の概要について
- ② 夏季集中講義について（8/8～12、金沢工業大学）

(コ) ビジネス探究科

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 外部講師招聘事業について（アナウンサー招聘講座等）
- ② 夏季集中講座について（8/8～12、市内企業、瀬戸市）
- ③ 今後の事業予定について（12月の校外学習等）

（サ）スポーツ探究科

活動報告書を参考に1学期の教育活動について説明。

- ① 夏季集中講座について（8/8～12、ボーイスカウト山中野営場）
- ② 授業への外部講師の招聘について
- ③ 学科としての地域連携活動について
- ④ 生徒の進路希望について（生徒の9割以上が進学希望）

（2）意見交換

[委員長]

御説明ありがとうございました。ただ今、いろいろな活動について、詳しい説明を受けました。まず、校長先生の話から市立高校の教育の柱が再確認できたと思います。それから、キャリア教育、探究学習について、各科ごとに具体的な活動について紹介していただきました。生徒の感想や意見もあり、1学期を振り返るのに参考になったと思います。また、スポーツの面でも素晴らしい結果を残されているという報告がありました。それでは、まず、ただ今の説明に対しまして、何か御質問があればお願いしたいと思います。

[A委員]

校長先生のコンセプトのところで、「郷土愛を胸に夢の実現にチャレンジする。」ということでしたが、具体的に郷土愛をどのように育てていくのかについて教えてください。

[委員長]

質問をもう少し出していただいてから、学校の方から答えていただきたいと思います。そのほかにいかがでしょうか。

[B委員]

総務課のところですが、今年度のPTA総会の出席率が14.7%で、昨年度は、22.7%となっていました。数値的にはかなり下がっているようですが、ここはどのように分析されていますか。

また、企画研究課の職員研修で、大手予備校の授業力向上セミナー

を全員が受講されたということですが、「今までにない研修であったが、本校が目指す方向とは異なるのではないか。」といった感想が多かったとありました。具体的には、どのような内容なのでしょうか。

[C委員]

情報管理課の説明の中に、図書室利用状況がありました。富士市は図書室に力を入れてくれており、私の中学でも図書費をかなり増やしてもらいました。これは、心の教育、本を通して人格形成をしていくという富士市の姿勢であろうと思います。そんな中で、市立高校の平成22年度1学期の貸出数が398冊。今年度は559冊ということでかなり増えてはいますが、生徒数を考えたときにこの数字は、どうなのでしょうか。貸出数を増やすためにどのような工夫をされているのでしょうか。

また、商業科・ビジネス探究科のところで、日商や全商の簿記等の検定の話がありましたが、こういうものを取らせ、挑戦させることによって何を狙っているのでしょうか。例えば何冠というのがありますよね、7冠とか。そういうものを取って、税理士になりなさい、会計士になりなさいといった目標を持たせて大学へどんどん薦めていこうとしているのでしょうか。資格を取ったら表彰ということですが、大学進学等の目標をしっかり持たせれば、もっともっと子供たちは頑張れると思うのですが。

[校長]

郷土愛については、それを広く捉えるのか狭く捉えるのかによって答え方が変わってきます。正直、学校としては郷土愛を3年間だけで育てていくというのは、なかなか難しいと考えています。自分の育った場所を愛していくというのは、生まれたときから培われて、そういう環境作りを社会全体でしていかなければなりません。それでは、市立高校ではどういった立場で取り組んでいくのかというと、生徒の郷土愛が生まれてくるきっかけ作りをするということになろうかと思えます。

今、私たちがやるべきことは、「自律する若者」をどういう風に育てるかです。地域と関わらせたり、実際に体験学習を通して社会の厳しさであるとか、様々な生き方を学ばせたり、或いはいろいろな方の講話を聞かせることで、知識を得させたりします。但し、聞いただけではそれを消化できないこともありますので、やはり、いろんな角度で

学ばせる必要があります。仲間で話したり自分で考えたりする環境が必要です。

我々は学校のコンセプトであるCDIを目指すことで、生徒に学ぶことの大切さや学ぶことの意味を考える力を付けたいと考えています。そして、何のために学ぶのかを考えれば、自分たちが成長して社会人になったときに地域に自分の力を返していくことが大事だということに生徒は気付くと思います。ですから、まずは、こうした「考える力」を生徒に身に付けさせることが大事だと考えています。できれば、A委員からも具体的なお知恵を貸していただければと思います。

[委員長]

委員の方からも、郷土愛をどうやって育成していくかについて、何か意見がございましたら、また、後ほどお願いできればと思います。

[総務課長]

P T A総会の出席率については、毎年懸案事項となっています。どのような形をとれば、参加率が上がるのか、なかなか難しい問題です。最近はお仕事をされている家庭が多く、平日の午後に行うとなると仕事を休んで来なければなりません。総会というのは、事業案と予算案の報告または承認ということで、お決まりの内容であり、今回も行かなくても良いだろうという方も多いわけです。わざわざ仕事を休んでまで来ていただけるものがあるのか、ただ今検討中です。一昨年は、土曜日に授業参観を入れて実施しました。その時には、インターハイ予選と時期がちょうど重なりまして、先生も生徒も教室にいないということがありました。「子どもがいないなら行っても仕方がない。」「先生と話ができれば・・・。」ということで、平日にして欲しいということになりました。そこで、昨年度は平日に行い、授業参観、P T A総会、その後、学年懇談会という順番で22.7%でした。今年度は、授業参観もやって午後からですと終了が遅くなってしまうので、試しに授業参観をカットしました。そうしたら、出席率が14.7%と下がってしまいました。これについては、P T Aでも危機感を感じ、7月11日の執行部会で、今後どのような形で出席率を上げていこうかという話し合いが行われました。また、総会には出席しないけれどもその後の、1年ですと講演会、2年ですと学年懇談会、3年ですと進路説明会だけに出席するP T Aもいます。やはり、保護者の関心は、進路のところでは、実は、本年度、体育館に各専門学校や大学の方に

見えていただいて、ブースを作って個別相談会を開き、進学にいくらかかるのか、どんな形で大学に入れるのかなどを具体的に聞けるようなことをやろうといった話もありました。しかし、2・3年生には就職の生徒も多く、まだ時期尚早ではないかということで見送りました。学校でもこんなことを考えているのですが、委員の先生方からも何か良い案があれば教えていただきたいと思います。

[企画研究課長]

今年度から、進学も真剣に考えていかなければならないということで、予備校からの授業支援をお願いしました。そこで行われた大手予備校の授業力向上セミナーは、かなりの進学校を対象とする内容のものでした。本校は普通の進学校ではなく、探究学習をベースに幅広い知識を身に付けさせて進学させる学校です。この探究学習を考えたときに、方向性が違うと感じた先生がいたのだと思います。

[情報管理課長]

1学期の貸出数が生徒数に比べますと、生徒数の方が多く、全く本を読んでいない生徒がいるという計算になりますので、当然この数字では満足していません。ですので、今、新刊本のPRに力を入れておりまして、司書さんにかなり頑張ってもらっていて、1階から2階に上がるまでの廊下のところで、新刊本をPRしています。今後は、さらに生徒の目線に立った選書に心がけ、貸出数を増やしたいと思います。

[商業科主任]

資格取得に関しましては、進学利用と就職利用の2つがあります。センター試験を課さないような大学の推薦基準は、簿記や情報処理の1級取得者及び評定平均値の高い生徒ということになり、9月の月上旬にそういった生徒の選考を行っています。やはり、資格を取らせることによって、進学先を広げることが出来ます。就職については、資格を持っている生徒でなければ応募出来ないということはありませんが、選考の結果を聞くと、合否の要素として資格のことが指摘されることがあり、少しでも幅広くより高い資格を取らせるということは意義があると思います。

[委員長]

まだ、質問もあるかもしれませんが、ここからは1学期の活動報告をお聞きして、感じたことやこうしたらどうかといった御意見をいただきたいと思います。

[D委員]

年度当初にも言いましたが、これまでの商業高校から新しい市立高校に変わり、先生方の意識改革が大切だと思います。先ほど教員研修の話が出ましたが、先生方自身から新しいキャリア教育や探究学習のための研修に行きたい、勉強したいという希望が出たときに、出来るだけ希望をかなえてあげられたらと思います。先生方からの自主的な研修の希望はどの位あって、どの位かなえられているのでしょうか。

[E委員]

企画研究課で行った生徒の授業アンケートの結果は、示していただけるのですか。そして、11月に2回目をやるということですが、内容は同じなのでしょうか。

[企画研究課長]

先生方に授業力向上セミナー等をやっていたいただいたこともあり、数名の先生方から個人的に研修に行きたいという希望がありました。しかし、今年度は全員の先生方に研修を受けてもらうという方針で、予備校の方から本校に来ていただいており、そこにお金を掛けていますので、個人的な研修は来年度からということになります。

また、11月の生徒のアンケートですが、内容は6月と内容は同じです。同じ内容のアンケートを取ることで、先生方がどう変わったのか、改善の状況がわかると思います。

[校長]

アンケート結果を公表するのは、なかなか難しいです。結果については、開封せずに代ゼミの担当者から直接、職員一人ひとりに渡して助言をしていただく形をとりましたので。

[F委員]

先ほどの質問は、授業評価の分析、そして大手予備校の授業力向上セミナーを受けて、現状と目標とのギャップが気になったの質問だっ

たと思います。個人の評価は公表する必要はないかもしれませんが、それを分析して、改善につなげていく必要があります。また、授業力向上セミナーには進学校的な指導が入り、市立高校が目指しているのは探究的なものが入るといふギャップにも個々の先生が戸惑われていると思います。このギャップを埋めていく作業も必要です。今、まさに新たに授業評価と授業力向上という新しい取り組みにチャレンジしているところだと思いますので、こうしたギャップをどう埋めていくかということが、一番の課題だと思います。アンケート結果を公表するかは別として、どういう取り組みをして努力をしていくかについては明確にしておいた方が良いでしょう。

[G委員]

教務課のところで、中学生の一日体験入学で8月に900名の参加者があったということでした。非常に多くの生徒が集まったようですが、どういう内容だったのか教えてください。

[教務課長]

体験学習的なものは実施せずに、1年生の夏期集中講座の事後指導の様子を中学生に見ていただきました。ビジネス探究科は、総合実践室での礼状作成、スポーツ探究科はパソコンを使って事後報告の作成、総合探究科は、班ごとにブリッジ制作の発表をしました。その他、施設見学や英語や簿記のサテライト学習の様子を見てもらいました。

[G委員]

なぜ、こんな質問をしたかということ、やはり、中学生がこの市立高校に入りたいという魅力が必要だと思うからです。チアリーダー部が東海大会で優勝したり、情報処理部・体操部が県大会で優勝するなど、この学校には優秀な生徒がたくさんいるわけですから、体験入学でそういう生徒たちに何か発表させたらどうでしょうか。「私たちはこうやって全国大会に行ったんだよ。」「うちの学校に来ればこういう風になるんだよ。」と生徒にその体験を語らせることで、中学生が学校に魅力を感じ、市立高校を目指してくれると思います。

[委員長]

大学のオープンキャンパスでも、教員が説明するよりも学生が自分の大学について思っていることやこういう勉強をしていますとい

った話をする方が、高校生にとっては大学を身近に感じてもらえます。こういった取り組みは、実際に私の大学でも行っていますが、学生がしっかり説明できるように教員が多少の指導をしなければならないので、それがなかなか大変です。ただ、こうしたことを経験することで学生自身が成長します。とても共感できる御提案であると思います。

[校長]

今回は、体験入学の時期が全国大会と重なっておりまして、なかなか思うようにいかないのですが、大変参考になりました。今後、検討させていただきます。

[H委員]

保健環境課の救急処置講習会が、8月5日に運動部の代表者各1名ずつで行われたということですが、運動部に限定したのは何か意味があるのでしょうか。また、今後、文化部にも拡大する予定はありますか。私は、やはり地震等何かあったときに、市立高校の生徒として地域に貢献しなければならないことを考えると、全校生徒にAEDの操作の仕方を習得させる必要があると思うのですが。

また、この28日にも防災訓練がありますが、部活動に行っている以外の生徒が参加するようなケースはあるのでしょうか。近隣の高校では、訓練に出た生徒は地域の町内会長に参加証明をもらって学校に出すといったことをやっています。これはまさに、高校生として地域に役割を果たしていこうという学校の姿勢だと思います。市立高校としてもこうした姿勢が必要ではないでしょうか。

生徒課の説明の中で、生徒会が部活動として発足とありましたが、他の部活動に入っている生徒は、生徒会長に立候補できないということなのでしょうか。

[保健管理課長]

講習会には、人数制限もありまして、運動部の生徒の方が必要性が高いだろうということで、まず運動部の生徒からということにさせていただきました。昨年度は、12月に1年生を対象に行っています。全員に講習を受けてもらうというわけにはいかないと思いますが、少しずつ人数を増やしていきたいと思っています。

また、防災訓練に出た者が参加証明をもらってくるというのは、本校でも実施しています。

[生徒課長]

生徒会の扱いについては、内規の見直しの際に検討させていただきました。部活になって部活の中から生徒会長を選ぶとなるとやはり問題です。そこで、今の委員会組織をしっかりと活かして、生徒会活動と部活動の兼任を可能としました。そのように、生徒会が孤立しないような形で考えております。

[C委員]

それでは、近くの人々の声を御紹介させていただきます。実は、私が野球の夏の大会で島田球場に行ったときに、学校のすぐ近くに住んでいる年配の方たちが5名ほど観戦に来ていました。お声を掛けたら「俺たちの生きがだよ。」と返事をくれました。この方たちは普段、市立高校のサッカーを見たり、野球を見たりするのを散歩のメニューにしているそうです。「どうしてですか。」と聞くと、「市立高校の生徒は、非常に爽やかである。」という答えでした。あいさつ、やっている姿勢、服装、いずれも爽やかなのだそうです。「ここ3、4年でこんなに爽やかで清しい思いをすることはなかった。」ともおっしゃっていました。私自身も毎朝6時55分頃、野球部の寮のところを通ると、掃除中にもかかわらず気を付けをして「おはようございます。」と必ずあいさつしてくれます。私が教員だということを恐らく生徒たちは知りません。非常に気持ちの良い思いをして学校に行かせてもらっています。帰りも同じです。昨日、本校の卒業生の保護者と会う機会がありまして、その時に、「うちの子どもに目標が出来た。友達と将来のことをどうやら話をしているようです。それに比べて、ある私立へ行った子どもは、勉強勉強で暗い。市立に行かせて良かった。」といった話を聞きました。どこの大学に行くからどうということではなくて、将来を自分で考えるようになったという話をしていました。きっと、いろいろな探究学習を通して御指導してくれた結果だと思えます。学校としても、子供たちに未来を考えさせてくれる学校になっていますし、地域に対しても清しさを与えてくれる学校になっています。市立高校の向かっている方向は間違っていないということを最後に言わせていただきました。

[委員長]

本日は委員の皆さまからいろいろと貴重な意見を出していただきまして、ありがとうございました。また、この意見を学校の方で精査し

ていただきまして、2学期以降の教育活動に活かしていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

4 次回の開催日程

事務局より、これからの日程について説明する。

5 閉会